

2018年2月6日

お客様各位

レオス・キャピタルワークス株式会社

「ひふみプラス」の 基準価額下落について  
(2月6日基準価額：40,296円 前日比-2,465円、下落率 -5.76%)

ひふみプラスのお客様

いつもひふみプラスをご愛顧頂きありがとうございます。

本日の日本株式市場は、TOPIXが前日比マイナス80.33ポイント(-4.40%)、日経平均株価が前日比マイナス1071円84銭(-4.73%)と大幅に下落をしました。このような中、ひふみプラスの基準価額も前日比マイナス2,465円(-5.76%)と大きく下落し、お客様にはご心配をおかけしております。

今回の株式市場の下落に端を発したのは堅調な米国雇用統計の結果です。これまでは米国を中心に世界的な景気拡大が進んでいたものの、米国のインフレ率上昇の鈍さを背景に積極的な利上げが行ない辛いという、株式市場にはポジティブな“適温相場”が続いていました。しかし、米国時間2月2日に発表された雇用統計では非農業部門の雇用者数が予想を上振れただけでなく、インフレ指標として注目される平均時給も予想を上振れたことで米金利が大きく上昇しました。この動きを受け、適温相場の終焉懸念が一気に高まり、同日の米国株は大きく下落しました。更に米国時間2月5日に発表されたISM非製造業景況感指数も予想を大きく上振れ、米国経済の堅調さが確認された事で米金利上昇懸念が一段と高まり、売りが売りを呼んで米国時間2月5日のダウ工業株30種平均は前日比マイナス1,175ドル21セント(-4.6%)と過去最大の下げ幅を記録しました。

昨日は押し目買いを受けて下げ渋る動きも見せていた日本株式市場ではありますが、米国株の連日の急落を受けて投資家心理は一気に冷え込みました。トランプ大統領就任以降、ほぼ右肩上がりの上昇を演じてきた株式市場だけに売りの勢いは後退せず、本日の日本株式市場は時間と共に下げ幅を拡大する展開を余儀なくされました。特にこれまでの好パフォーマンス銘柄への売りが目立ち、昨年来の上昇率でTOPIXを大きく上回っていた東証マザーズ指数は前日比マイナス118.13ポイント(-9.17%)、日経ジャスダック平均株価は前日比マイナス298円41銭(-7.16%)下落する等、中小型株指数の下げが目立っております。

ひふみプラスは過去6年間で臨時レポートを7回発行しています。過去6年間は、基準価額の大きな下げを幾度も乗り越えて成長してきました。大切なことは基準価額や株価が大きく下落をしたときにどのように行動するかです。

今回のような大きな下落はすばらしい会社に安く投資をできるチャンスでもあります。わたしたちは決して市場の先行きを楽観視しているわけではありませんが、このような市場環境の中でも、毎日のように企業を訪問し、繰り返し経営者のお話を伺う中で、日本には未来を託せる素晴らしい経営者や企業がたくさん存在しているとの確信を深めています。短期的には株式相場は大きく変動します。どのように緻密に運用をしようとも、基準価額の下落を短期的には防げません。しかし、素晴らしい会社に対して長期的な視点で割安な価格で投資をするとき、その努力が裏切られることは今までの運用成績においてはありませんでした。

今後も市場と常に慎重に向き合い、今回の下げ局面を通じて素晴らしい企業に割安に投資する機会があればしっかり投資を行い、長期的によい成果を出すために全力を尽くしてまいります。また、市場環境に応じて適宜ご報告をさせていただきます。

今後ともひふみプラスおよびレオス・キャピタルワークスをよろしく願いいたします。全力を尽くして運用をします。

レオス・キャピタルワークス株式会社  
代表取締役社長  
最高投資責任者  
藤野 英人

□ 「ひふみプラス」に係るリスクについて

「ひふみプラス」は、国内外の株式を組み入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動するため、株式価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割り込むことがあります（株価変動リスク）。外貨建資産を組み入れた場合、為替レートの変動の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。投資国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、「ひふみプラス」の基準価額が大きく変動するリスクがあります（為替変動リスクとカントリーリスク）。したがって、お客様（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。この他には、流動性リスクや信用リスク等があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

□ お客様の負担となる費用について

お客様に直接ご負担いただく費用：申込金額に対する手数料率は 3.24%（税抜 3.00%）を上限として、販売会社が定める料率とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。「自動けいぞく投資コース」において、収益分配金を再投資する場合は無手数料です。

お客様に間接的にご負担いただく費用は次の通りです。

信託報酬	信託財産の純資産総額 500 億円まで：年 1.0584%(税抜年 0.980%) 信託財産の純資産総額 500 億円を超える部分：年 0.9504%(税抜年 0.88%) 信託財産の純資産総額 1,000 億円を超える部分：年 0.8424%(税抜年 0.78%)
監査費用	信託財産の純資産総額に対して年 0.0054%（税抜年 0.005%） （なお、上限を年間 54 万円（税抜 50 万円）とします。当該上限金額は契約条件の見直しにより変更となる場合があります。）
その他の費用	組入有効証券の売買の際に発生する売買委託手数料（それにかかる消費税）、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息など

※ 「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

- ・ 本資料は、レオス・キャピタルワークス（以下「当社」といいます。）が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
- ・ 本資料の作成にあたり、当社では情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・ 本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ・ 投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行なっていただきますようお願いいたします。

レオス・キャピタルワークス株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 1151 号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会